

議題7 中津川市民病院の非稼働病棟※を再稼働することについて

説明者	中津川市民病院 安藤院長
説明概要	<p>資料7「中津川市民病院の休床病棟を再稼働することについて」に基づき、現状、今後の予定、医療従事者確保の方針、地域医療構想との整合性等を説明。</p> <p>○中津川市民病院（以下、「市民病院」という。）と坂下病院は新公立病院改革プランに基づき、様々な計画を実行してきた。市民病院の急性期病床の増床（2床）も検討したものの、県に確認した結果、以下のとおりであったため、断念した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東濃圏域の病床は、基準病床に達していないが、地域医療構想上の必要病床数を上回っているため、休床病床を急性期病床で再稼働することは認められない。 ・本件は坂下病院の急性期病床を減らすものであるが、これにより地域の急性期機能は市民病院が担うこととなる。この場合でも市民病院の急性期病床の増床（2床）は認められない。 <p>○坂下病院の一般病床を削減し、老健に転換した（H30年3月）。現在、2病院の稼働している急性期病床は287床、地域包括ケア病棟40床、療養病床50床となっている。H29年7月から、入院を要する手術は市民病院へ集約している。救急外来も同様である。外来機能では、脳神経外科を市民病院へ集約。</p> <p>○今後の予定として、H30年7月末で坂下病院の急性期50床を休床するため、市民病院の休床病床39床を地域包括ケア病棟として再稼働。再稼働後の2病院の稼働病床は、急性期237床、地域包括ケア病棟79床、療養が50床となる。当初に比べ、稼働している急性期病床は149床減少し、回復期が79床増加する。</p> <p>○中津川市新公立病院改革プランは、地域医療構想に沿う形で作成されている。地域医療構想では、坂下病院の役割分担について検討すること、2025年の医療需要を見ながら、一般病床のあり方を検討すること、2病院の病院間の整理・位置づけについて、研究検討することという記載があり、これに沿って検討している。</p> <p>○急性期病床を減らし、中津川市に不足している回復期機能を増やすという地域医療構想に基づいた運用をしていく。よって、市民病院で休床中である39床について、地域包括ケア病棟、すなわち回復期として再稼働することとしたい。</p>
協議結果	特段意見はなく、了承された。

※1年に一度も入院患者を収容しなかった病床のみで構成される病棟